



きずぐち  
傷口がずきずきするのは、なぜなの

けがをなおそうと、いろいろなものがはたらいているため

傷ができると、血はすぐにかたまってかさぶたをつくり、傷口をふさいで出血を止め、ばい菌などが入ってきたりするのを防ぎます。次に、傷口から入ったばい菌などを殺すために、白血球などが集合し、傷が化のう（うむ）するのを防ぎます。そして、傷口をなおして元通りにするために、皮ふは新しい細胞をどんどんつくるのです。

けがをして傷ができると、傷口がずきずきするのは、傷口の皮ふの中で、けがをなおそうと、いろいろなものがはたらいているためです。

また、皮ふのすぐ下には、痛さを感じる神経がたくさんきているので、傷口がずきずき痛かったり、痛みの軽いときには、むずがゆかったりするのです。

「かさぶた」をつくるのは、フィブリン

けがをして血管が切れると、血液中の、血小板とよばれるものが集まり、血液中からフィブリンとよばれる、細い糸のようなものがあらわれます。このフィブリンは、血液中の血小板や赤血球をからめながら、かたまりをつくりまします。このかたまりが、少しかたくなつたのがかさぶたです。（監修・保志 宏）

